

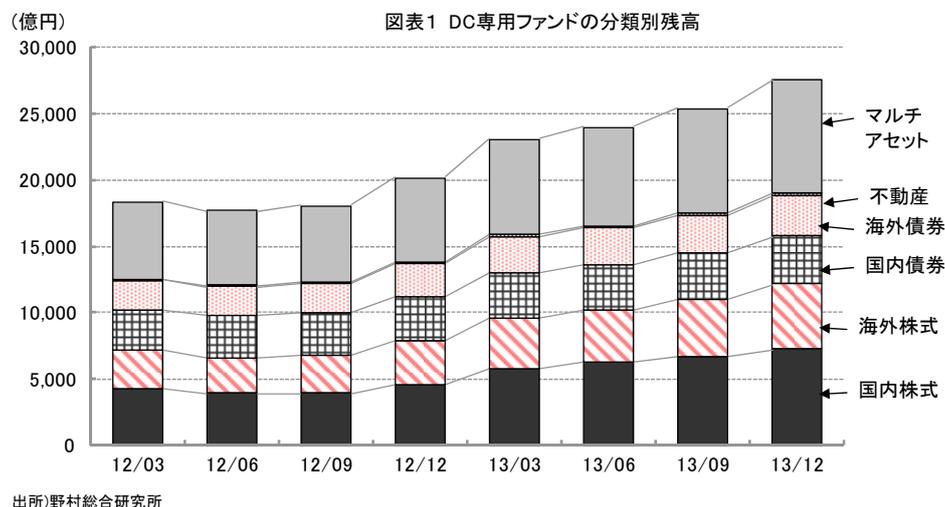
### 確定拠出年金専用ファンドの動向(2013年12月)

2013年度第3四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は前の四半期に比べ、2185億円増加し、2兆7500億円に達しました。収益率は全ての分類でプラスになり、特に国内外の株式型や海外債券型が良好でした。それにもかかわらず確定拠出年金専用ファンド全体の資金純流入額はそれほど多くなく、収益率が高かった分類の資金純流入は少額又はマイナスでした。そして加入者全体では、時価の変動により配分比率の高まった商品から、比率が低くなった商品への資金の一部を移しているようにみえます。

#### 確定拠出年金専用ファンドの残高

2013年度第3四半期(10月～12月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信<sup>1</sup>の残高は前四半

期に比べ2185億円増加し、2兆7552億円になりました。昨年度第3四半期に始まり5四半期連続で最高額を更新しています(図表1)。



<sup>1</sup> DCにおける投信残高の凡そ9割は、DCだけのために特別に設定されたDC専用ファンドといわれています。

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送を行わないようお願い致します。

図表2 DC専用ファンドの分類別残高(億円)

	12/03	12/06	12/09	12/12	13/03	13/06	13/09	13/12
国内株式	4,299	4,005	3,919	4,600	5,732	6,270	6,709	7,231
アクティブ運用	1,678	1,546	1,512	1,778	2,199	2,428	2,613	2,863
パッシブ運用	2,621	2,459	2,407	2,822	3,533	3,842	4,097	4,367
海外株式	2,850	2,594	2,849	3,259	3,831	3,936	4,246	4,913
アクティブ運用	749	668	738	835	980	1,010	1,092	1,262
パッシブ運用	2,102	1,926	2,111	2,424	2,850	2,925	3,154	3,651
国内債券	3,062	3,212	3,253	3,337	3,432	3,411	3,520	3,635
アクティブ運用	495	517	534	544	557	548	565	580
パッシブ運用	2,567	2,694	2,719	2,793	2,874	2,863	2,954	3,055
海外債券	2,216	2,155	2,157	2,490	2,664	2,743	2,810	3,053
アクティブ運用	327	321	331	372	391	397	406	429
パッシブ運用	1,889	1,834	1,825	2,118	2,273	2,346	2,404	2,624
不動産	95	96	108	131	229	187	215	225
マルチアセット	5,805	5,620	5,745	6,345	7,181	7,428	7,867	8,496
バランス型	5,678	5,494	5,615	6,201	7,013	7,250	7,661	8,239
ターゲットイヤー型	85	84	88	95	108	113	121	132
アセットアロケーション型	41	41	43	48	60	65	85	125
<b>残高合計</b>	<b>18,327</b>	<b>17,681</b>	<b>18,032</b>	<b>20,161</b>	<b>23,068</b>	<b>23,976</b>	<b>25,367</b>	<b>27,552</b>
残高割合								
国内株式	23.5%	22.7%	21.7%	22.8%	24.8%	26.2%	26.4%	26.2%
海外株式	15.6%	14.7%	15.8%	16.2%	16.6%	16.4%	16.7%	17.8%
国内債券	16.7%	18.2%	18.0%	16.6%	14.9%	14.2%	13.9%	13.2%
海外債券	12.1%	12.2%	12.0%	12.3%	11.5%	11.4%	11.1%	11.1%
不動産	0.5%	0.5%	0.6%	0.7%	1.0%	0.8%	0.8%	0.8%
マルチアセット	31.7%	31.8%	31.9%	31.5%	31.1%	31.0%	31.0%	30.8%

出所)野村総合研究所

ファンド分類別にみても、全ての分類の残高が増加しています(図表2)。増加額が多いのは、海外株式型やマルチアセット型、国内株式型で、それぞれ667億円、629億円、521億円増加しています。

分類別残高構成をみると、マルチアセット型の割合が最も高く、全体の30.8%を占めています。2番目に残高の多い国内株式型は全体の26.2%ですので、上位2タイプだけで全体の57%を占めていることとなります。

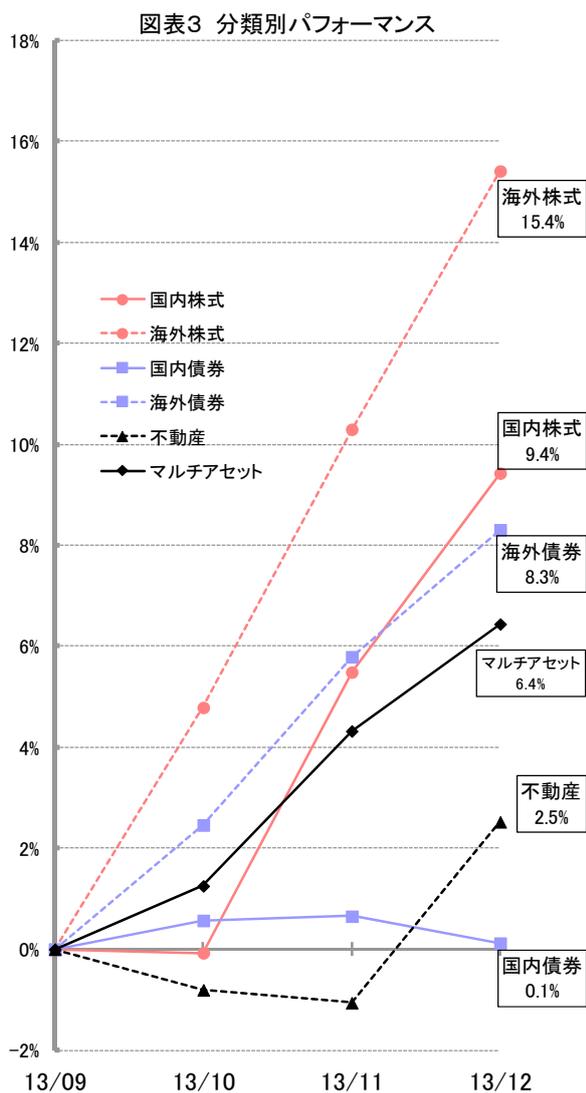
次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ44.1%、24.3%となり、前の四半期に比べて、それぞれ+0.9%、-0.7%変化しています。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、39.4%であり、前四半期から0.9%減っています。逆に海外資産を中心に運用するファンドは前四半期から1.1%増加し28.9%になっています。

さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は、72.7%となっています。パッシブファンドの割合は2012年度第1四半期(2008年6月末)の74.5%から1年半で1.8%低下していますが、それでも依然として高い割合を維持していると言えます。

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。



出所)野村総合研究所

### 分類別パフォーマンス推移

図表3は2013年度第3四半期中におけるファンド分類別累積投資収益率の推移です。この四半期は全てのファンド分類の収益率がプラスとなりました。円安の進行と米国株相場などが堅調だったことを受け、海外株式型の収益率は毎月5%近く、四半期では15.4%に達しました。また海外債券型も円安により四半期で8.3%の収益をあげています。国内株式型は10月こそ振るわなかったものの、11,12月は4,5%の収益をあげ、四半期では9.4%もの高い収益となっています。9月に東京オリンピックの開催決定を受けてパフォーマンスが大きく上昇した不動産型は10,11月にいったん調整しましたが、12月に入り再び上昇したため、四半期の収益率は2.5%になりました。

### 分類別資金純流入額の推移

図表4は、2012年度第3四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額－解約額)の推移を表したものです。

収益率が全般的に高かったにもかかわらず、DC専用ファンド全体の資金純流入はそれほど多くありません。設定と解約のデータが公表されている11月分まで見る限り、月間500億円近い資金が流入したと同時に、月間450億円も解約され

図表4 DC専用ファンドの分類別資金純流入額(億円)

	12/10~ 12/12	13/01~ 13/03	13/04~ 13/06	13/07~ 13/09	13/10~ 13/12
国内株式	28	151	-34	47	-103
海外株式	38	35	-97	7	14
国内債券	89	23	37	67	111
海外債券	40	13	-2	25	10
不動産	9	37	-16	14	4
マルチアセット	101	114	-40	131	120
資金純流入合計	305	373	-153	292	155

出所)野村総合研究所

### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

ています。活発な売買の結果、四半期では純額では155億円しか流入していないと言えます。

分類別にみると四半期の収益率が高かった国内株式型や海外株式型、海外債券型では純流入額がマイナスかプラスでも少ない金額でした。一方、収益率がそれほど高くなかった、マルチア

セット型や国内債券型の資金純流入額は100億円を超えています。従って、DC加入者全体で見ると、時価の著しい上昇により配分比率の高まった投信を売却し、反対に時価はそれほど上昇しなかった等の理由で配分比率が低下した国内債券型投信や預金等の商品に資金の一部を移し替えているようにみえます。

弊誌の記事はバックナンバーも含めてホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

**編集:** 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、  
野村資本市場研究所、野村総合研究所

**発行:** 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター  
(年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2  
アーバンネット大手町ビル

**TEL:** 03 (6703) 3991

**FAX:** 03 (6703) 3981

**Email:** [nenkin@jp.nomura.com](mailto:nenkin@jp.nomura.com)

— 次号のお知らせ —

次号は

**2月10日(月)**

発行予定です。

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されました御客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送を行わないようお願い致します。

## 野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.365% \*1(税抜1.3%)(20万円以下の場合は、2,730円 \*2(税抜2,600円))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

\*1, \*2 2014年4月1日以降、消費税率8%が適用される分については、\*1は1.404%、\*2は2,808円となります。

野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第142号

加入協会／日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会